

研究 報告

イネカメムシ羽化日予測システム 「イネカメなび（仮称）」を用いた千葉県現地における発生消長の推定

千葉県農林水産部 清水 けん

はじめに

近年、水稻におけるイネカメムシ *Niphe elongata* (DALLAS, 1851) (図-1) の発生が関東以西において増加し、本種による不稔被害や斑点米被害が問題化している(平江ら, 2021; 石島, 2021)。当県においても、本種発生量は2018年以降増加傾向にあり、特に2024年は例年に比べて多発生が認められた(図-2)。斑点米被害においても本種による特徴的な基部加害型の占める割合が増加傾向にあり(安江ら, 2022)、本種の重要度は高まっている。本種に対する防除技術の確立や、それに資するさらなる生態解明が求められる中、多くの関連研究が進められているのは心強い限りである(北野・増田, 2024; 鳥飼・樋口, 2023; 住田ら, 2024; 八塚ら, 2023ほか)。

ほかの斑点米カメムシ類と生態を比較する中で、本種の特徴としては「餌としてイネの穂に対する依存度が高い」と「出穂直後のイネを求め出穂期の水田を好む性質が強い」ことが挙げられ(SHIMADA and SUGIURA, 2020; 高井ら, 1975 ほか)、この特徴を称して「超イネ派」であるとした筆者による提案も(清水, 2024)、関係者には好意的に受け止められているようである。この生態を考慮すると、昨今の本種の増加傾向の原因として、農業経営体の規模拡大や、新規需要米等の導入品種数の増加によるイネの栽培期間の長期化により、好適な餌であるイネの穂が従来よりも得やすくなったことが挙げられることも(石島, 2021)、合理的であろう。

本種越冬成虫の活動開始時期は地域により異なり、その行動については未解明な部分も多いが、各水田には出穂期前後に侵入すると考えて良さそうである(石島ら, 2020; 北野・増田, 2024; 鳥飼・樋口, 2023)。本種に

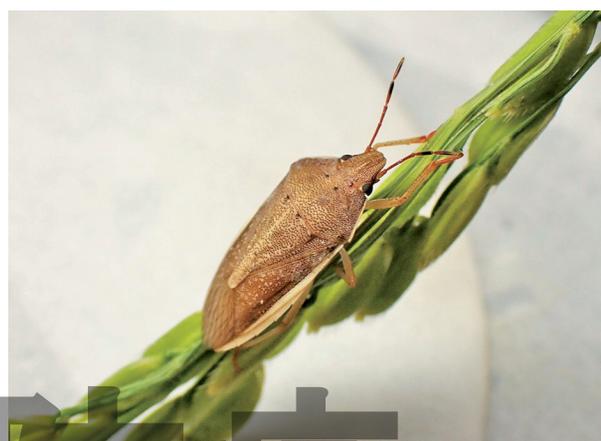


図-1 イネカメムシ成虫

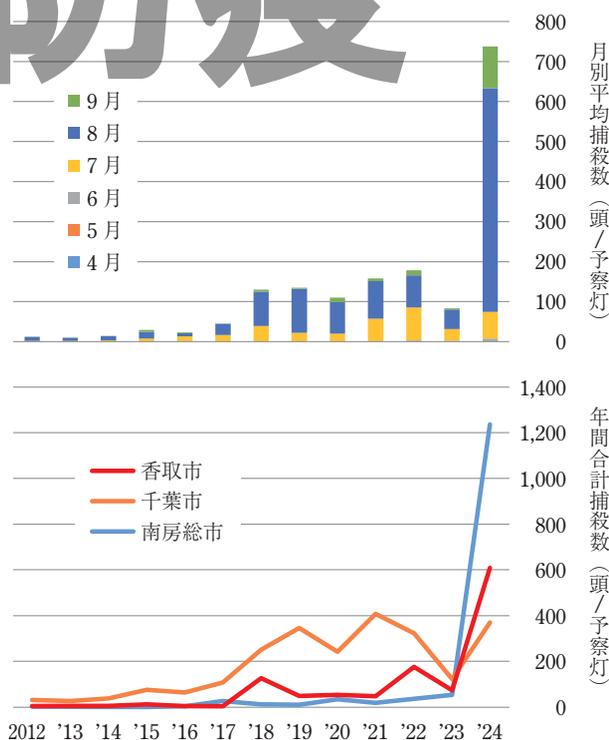


図-2 千葉県内予察灯によるイネカメムシ発生量の推移(2012~24年)(千葉県農林総合研究センター病害虫防除課調べ)
上) 県内3地点に設置した予察灯への月別捕殺数(4~9月)平均値。
下) 各予察灯における年間合計捕殺数の推移。

Estimation of the Occurrence Timing of the Rice Stink Bug, *Niphe elongata* (Hemiptera: Pentatomidae) by Use of the Emergence Prediction System "Inekame-Navi". By Ken SHIMIZU
(キーワード: イネカメムシ, 発育零点, 有効積算温度, メッシュ農業気象データ, 羽化日予測)